

妊娠中の検査について

妊娠初期検査：妊娠12週頃

自費検査

必ず受けていただく検査項目です（別紙参照）

- 淋菌検査 ○ 膣内細菌・頸管細菌培養検査 ○ 生化学検査 ○ 甲状腺機能検査

公費負担（全額または一部）検査

- 貧血検査 ○ 梅毒検査 ○ B型肝炎ウイルス検査 ○ HIV ○ 風疹 ○ 血液型・不規則抗体検査
- 血糖（グルコース）検査 ○ C型肝炎ウイルス検査 ○ クラミジア検査 ○ 子宮頸癌（細胞診）検査
- 成人T細胞白血病検査 ○ ヒトパピローマウイルス（HPV）検査

クラミジア、膣内細菌検査、子宮頸癌検査は内診で行う検査です

希望者のみの検査

- トキソプラズマ抗体検査
- ムンプスウイルス（おたふく）検査
- サイトメガロウイルス検査

妊娠後期検査

妊娠30週頃・・・○貧血検査（公費） ○血糖検査（公費）

妊娠32～34週頃・・・○細菌（GBS）検査（公費）

細菌（GBS）検査は内診で行う検査です

妊娠36週以降の検査

- 貧血検査（公費）
- NST（私費）

※ 公費負担検査について、都道府県・市町村により異なります。また制度の変更により変わることがあります。

※ 検査費用については都度お尋ねください。予告なく変更となる場合があります。

※ 妊娠中の検査は健康保険が適用となりません。費用が多額となりますがご了承くださいませ。

※ 検査内容の説明については、別紙またはマザリー教本P14～15をご参照ください。

妊娠中から授乳期間の栄養補助のためのサプリメントについて

妊娠中からの栄養が胎児の発達、産後の母乳栄養へ影響するといわれており、妊娠期から授乳期まで、タンパク質、鉄・亜鉛・ビタミンB群、ビタミンA、葉酸・ビタミンC、ビタミンD等を補う必要があります。特に「隠れ貧血」といわれる鉄（フェリチン）不足は、分娩時の大量出血の原因となるだけでなく、抑うつ症状（精神的落ち込み）が出る要因にもなるといわれています。近年、分娩時の多量の出血や、精神的なサポートが必要な方が増加してきています。このことから、予防的に医療用サプリの服用についてもご相談に応じています。

自分自身の健康はもちろん、これから始まる子育てや赤ちゃんの栄養について考えていきましょう。

